

事業の目的・目標

ユーカリの西日本（3市町）に於ける育成実証事業を通じて、高い木材生産性、育成及び伐出コスト削減の実現に向けた道筋を見い出す。

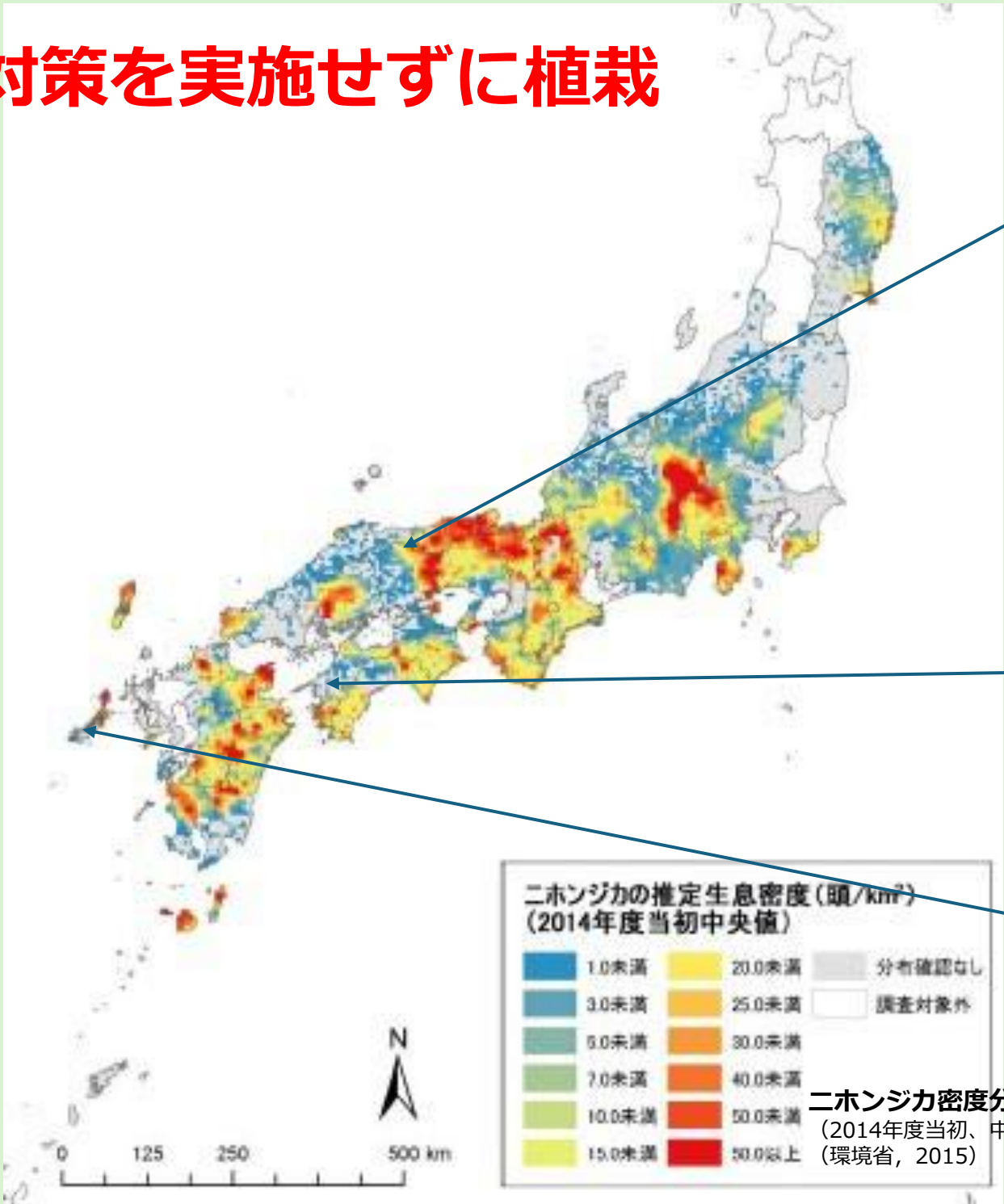
＜ユーカリの特徴＞
成長性（スギの2倍）
密度（同上）



＜目標＞
10年毎皆伐（成長性：40m³/年/ha）
植栽保育コスト削減（鹿対策なし、下草刈りなし）
伐出コスト削減（高密度路網、機械化）



獣害対策を実施せずに植栽



兵庫県佐用町
植栽予定面積 60ha
2024秋～2025春 7.7ha 植栽中

愛媛県
久万高原町47ha購入済
2025春 2ha 植栽済

長崎県 五島市

2024年の主な成果

育苗施設
（ビニールハウス+屋外施設）完成
⇒10万本/年
生産体制 確立



ビニールハウス内高温障害

夏は屋外育苗へ方針変更

2025年 春植え
久万高原町 5,000本



ビニールハウス内暖房なし冬越し

2024年 秋植え
佐用町 1,350本



課題と今後の取組

日本の気候に適合し、鹿に食われない苗の育成の実証を継続
ユーカリ樹種の選定
育苗期間（植栽時の葉の厚さ）
植栽時期（前生林皆伐後〇年以内）
植栽場所（日当たり、土壌水分量）

最適な植栽密度の実証を開始
高密度植栽（植栽コスト↑、下草刈りコスト↓、伐出コスト↑）
VS
低密度植栽（植栽コスト↓、下草刈りコスト↑、伐出コスト↓）

現地調査～伐倒伐出までのトータルコストを最小化する仕組みの実証を開始



レーザーローン
現地調査期間短縮



ロングリーチ伐倒ソー
伐出能率向上



ホイール式フォワーダ
搬出能率向上

冬を越せなかった樹種



葉の厚さ＝育苗期間



実用化・事業化の見通し

日本の気候に適合し鹿対策不要なユーカリ樹種を選別、下刈りなしによるコスト削減、機械化による伐出作業の合理化

〇10～20年毎に皆伐できる林業を目指す

連絡先：株式会社ジャパンインベストメントアドバイザー 新規事業開発部 中里 良夫
MAIL：ynakazato@jia-ltd.com